常磐毎日新聞

二月二十一日　夕刊

日刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本吾治
平市[illegible]
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京　四〇二二〇番

印刷の御用は

常磐毎日印刷株式會社へ

電話六三〇番

愛國の赤心に飛ぶよ『國債』

けふから賣出した

平局の好成績振り

新東亞建設下に發行された支那事變國債第八回賣出しは愈々今二十一日から開始されたが平郵便局における初日の成績は割當額

△千圓—一五枚△五百圓—一二枚△百圓—四十枚△五十圓—五枚△二十五圓—二十枚△十圓—三十枚

合計二萬六千五十圓のうち早くも愛國の赤心に燃える買入希望者が續々と現れ既に千圓券五枚、百圓券十枚、合計六千圓が賣れ頗る好成績を示してゐる

鑛業權公賣

未納税の處分

二十八日平税務署で

平税務署の昭和十三年度石城郡下鑛業税は採掘鑛區税二萬七千四百七十一円、試掘鑛區税二萬九千四十九圓で採掘鑛區税は完納したが試掘鑛區税は未納者十一名、税額約二千五百円程あるので同税務署では二十八日午前十一時からこれら未納分に對し署内で入札を行ひ鑛業權の公賣を行ふことに

なつた

團体の寄附 四倉

町銃後會では今次事變突發以來町内における各公共團體と緊密なる統制をとり應召、現役の將兵遺族に對し遺漏なき活動を續け町民より賞讃されてゐるがこの程左の二團體は活動強化のためにと基本金のうちへ寄附關係者を感激させた

△二百五十円四倉町商業報國組合△五十圓四倉町藝妓屋組合

馬産擴充

郡組合協議

石城産馬畜産組合では來る二十三日午前十時から平團體事務所で總代人會を開き馬産擴充に關し協議するが當日は縣から湊川種馬所長、河原田技師が臨席される筈

第三校の廢品回收

恤兵金寄附

平第三小學校では過般來全校兒童を動員して古雜誌、古新聞、鐵クズ等の廢品回收運動を行つてゐたがこの程これを賣却したところ十三円になつたので今二十一日赤津校長が代表恤兵金として市役所に寄託した

溫かな懷ろを貯蓄で護れ

工場の從業員に

平署巡回講演

工業方面の好況に連れ懷ろの溫かな從業者達が浪費癖に陷る樣な事があつてはならぬと平署では縣工場課から小熊警部を招き管内各工場從業員に非常時意識の昂揚と貯蓄心の涵養に關する講演會を開催することになつたがその日割は左の如くである

△二十一日赤井日本窯業平市佐藤鐵工所、同武藏鐵工所△二十二日平電氣製鋼所、片倉磐城製糸工場、平製作所河田鐵工所、吉健鐵工所△二十三日内郷昭和窯業綴工場、湯本町品川白煉瓦

同僚から盜み郷家へ送金

發覺檢擧さる

内郷村磐炭坑夫宮城縣亘理町字新井町佐藤周吉（三〇）は目下平署に窃盜罪で檢擧され取調べを受けてゐる

同人は舊曆年末に郷里に送金すべく舊正月もあと二日に迫つた十七日朝六時頃同礦圓谷合宿所で同宿の同僚佐藤哲四郎君から現金十五圓十錢を盜出した足で綴郵便局に行き十五圓の小爲替を組み郷里の實家に宛て送金したものである

小川碑準備

既報小川江筋の改修記念碑は小川村關場地内に建設されることになつたがこれが委員會は來る二十四日午前十時から平團体事務所に開かれる

司法保護委員辭令交附式

今回司法保護委員制が實施になつたに就いて平區才判所檢事局管内に於ても夫々同委員を任命する事になり來る廿六日午前十時から平市公會堂に福島司法保護常務委員會々長の増田檢事正が臨席辭令交附式を擧行する筈

人不足時代に

是は又珍現象

運轉手閑出し

一時全國的に自動車運轉手の大不足を來し縣自動車協會平支部管内の業者もそのあほりを喰つて運轉手不足に大恐慌を來してゐたが僅か一年後にして早くも運轉手失業といふアベコベな現象を呈して來た、これは例のガソリン統制による業者の業務短縮が最大原因、そこへ出征してゐた運轉手がドン〳〵歸還して來るので仕事が三分の一に短縮されたところへ人員は從前通りに復しつゝあるため大量の運轉手が閑出しとなるわけで同支部でも寄り〳〵善後策を考究中である

明日は晴れる

今朝から降り出した雪に早春の寒さ一頻り嚴しいものあるが小磯小名濱測候所長に聞けば高氣壓は北支から蒙古にかけて七百四十ミリを示して居るに對して房總南沖合に低氣壓七七百五十二ミリが頑張つて居る關係で俄然雪空と化したが是れは一時的の現象で今晩から明日にかけて北西の風晴れとなる筈で舊年始の賀客の心配する泥土に染める程の事もあるまいといふ

銃後の總力戰に

勞資協調の結實

發展途上の日曹福島炭礦

福島炭礦は大正五年十二月創業に係り總坪數貳百六拾四萬二千參百坪の曠漠たる鑛區を抱擁し常磐各炭礦中磐城、入山好間に亞ぐ大炭礦として名聲嘖々たるものあつた所經營者の變遷等により聊か退嬰の氣運に陷つたが昨年九月日曹鑛業株式會社に於て同炭礦の一切を買收せられ日曹福島炭礦と改稱の上同社に於て直接經營する事となるや頓に氣運一變活況を呈するに至つた。日曹鑛業株式會社は東京市麴町區大手町二丁目八番地ノ七に所在し現在卅一ヶ所の鑛業所及化學的多數の各姉妹工業所は朝鮮、滿洲、樺太、北海道其他全國各地に散在し何れも隆昌を極め産業報國の眞摯的業績を收めつゝあるの實況で是れに伍せる日曹福島炭礦も亦自然發展の高潮に惠まるゝは當然である。現島居鑛長及野津事務長は日曹經營と同時に就任せられ、爾來銳々現在作業中の新坑の實情を精査研究せられたるの結果時局下に於ける産業人として頗る遺憾なるを痛感せられ夙夜奔走寧日なき精査と計畫の上現在作業中の坑内作業所の大擴張を企圖し而して隣接せる日曹赤井鑛業所に屬する鑛區に向つて掘進を開始し目下極力進捗中であると共に一面坑内外の各種設備は盡く機械化し整備整頓の完璧は眞に理想的ならしめ又鳥居鑛長に亞ぐ野津事務長を首め三拾五名の職員と五百有餘名の從業員は眞に勞資一體總親和總努力を「モットー」とし一糸紊れぬ統制下に精勵し依つて以つて産業報國の國家的使命を果すべく邁進せられつゝあるは誠に欣快とする所である

鹽田坑開鑿

現在作業中の新坑は前顯の如く擴張を急いで居るの外一方總工費三十萬円の豫算を以て新たに鹽田坑の開鑿を企圖し一月卅一日鍬人並に地鎭祭を擧行し爾來掘進作業を續けて居るが此の掘進延長二百三十間にして着炭の豫定である、同坑の總坪數は八十五萬坪餘、埋藏鑛量約三百萬屯の測定で本坑の前途は頗る有望なるは勿論着炭の上は當礦の一大殷賑と活況を呈すと共に地方一般に對しても亦好況を招來するに至るは明らかである。鳥井鑛長に亞く野津事務長は何れも仁義道德心に惠まれ其の蘊蓄せらるゝ材幹は人の道人の勤めなる天理を雛針として合理的經理に當らるゝと共に常に從業員の統制に付ては總親和と總努力を鑛是として實踐垂範の裡に指導訓育しつゝあるが爲其の實績は明朗活達に顯現し眞に勞資一體の美況を具現せるの有樣なるが之れ即ち當礦隆昌の前提的一根幹を爲す所以である、又一般從業員に對し時局の認識と國民精神の作興に力められ夙に之れが訓陶宜しきを制せられ爲めに一般從業員は克く事變下の産業振興の緊要と其の原動部門の一たる石炭採取の頗る最たるべきを自覺し依て以て常に産業戰士たるの堅き決意を抱持し、而して各分擔事務に精勵しつゝあると共に一面貯蓄報國銃後生活刷新斑等の各制度の下に一律且つ整然たる秩序を保たれ遺漏なき實行を期しつゝあるは實に賞讃に價するの現況である。現在作業中の新坑は傾斜十二度にて又坑道は至つて淺く殊に坑内溫度は攝氏廿度に過ぎざる爲め勞役作業上實に好適せる氣溫なる事は坑内溫度として他に比類なき得難き天惠なりとす之れが爲保健衞生に適し從て當礦從業員中には十年十五年、廿年等の永年勤續者頗る多き有樣である

東日本丸の業績

小名濱支局通信

支局長　小野務平

時代は既に遠洋漁業を歡迎して居る事を如述に語つて居る、小名濱港に錨を据いて遠洋漁業のスタートを切つた東日本丸は昨年十月種々の推測の裏に堂々たる雄姿を太平洋に投げて處女航行に就てから實に第四回目の出漁である、が第一回の秋の魚漁は他の何船をも壓倒して好成績の裏に第六第三回共鮪流しの操業に從事し何れも大漁凱歌を擧げ得たる事は本社逸早く報導の任を果し天下に其業績を知らしめたのであつたが第四回航行が去月二十四日前後であつたが、前回とは其方向に於て別途を辿り南洋方面を差して出航した事も當時報道をして置いた所である

所が其當時無電の關係で消息更になきとの事で其成行を案じ居つたのであつたが、余りの勞心から今朝東日本丸の經營會社である東日本漁業株式會社社長水野政次郎氏を尋ね其後の情勢を聞けば氏は昂然として無電を前に左の如く語り遠洋漁業の將來性に就て大なる確信を得たるが如き面持ちにて除ろに話を進めた

二十日朝東日本丸の消息が約一ケ月で承知する事を得た其通報し來たる要點を語ると南洋島サイパン島方面にて滿船の大漁を占め赤道直下の爲めに貯藏せる氷塊も解け冷凍機能も滿足でなく遂に氷塊積込みの爲めサイパン島に寄港して準備も成り出港歸路に就いたと云ふのだから魚族の種類は未だ判明せないが鮪類である事は想像し得る、これで永い間消息もなかつた東日本丸の樣子も判つて一日安心し歸港を待つて居る次第であると

云ふのであるが、水野重役には裹み切れの喜びの程も推察されるが、之を地方的に考察して遠洋漁業の先驅をなした東日本丸の使命と其責任は重且つ大で、若し其業蹟に於て不首尾に終るが如き事あらんには同會社重役の社會的立場を失ふのみでなく本縣水産業に暗影を投ずる事となる恐れもあるので水野重役の苦心は實に玆に存するのであるが、東日本丸の業績は實に其航海數の重なると共に他の追從を免きぬ程の好成績を擧げ得たるもので其前途に向つて更に多幸なれと祈るものの一人である

（終）

巡査新配置

本縣新巡査の配置はこの程發表されたが地方關係は左の如くである

△平—渡邊寅雄、菊地利、堀江平重△植田—佐久間博△四倉—齋藤

木炭品評

四月に延期

新一濱三郡石城、双葉、相馬の木炭品評會は既報の如く三月二十八日から三日間浪江小學校で開催される筈であつたが都合により四月二十八日から三日間に延期された

郡下清酒の賣行き芳し

優良酒を吟釀

石城郡下の清酒仕込みは例年にない寒氣の襲來に惠まれて成績頗るよく漸く峠を越えて目下吟釀期にあり今月一杯で仕込みは大体終了する模樣であるが、郡下の酒造高は一萬五千石で一方清酒の消費は事變も漸く長期戰に入つて腰も据はり殊に炭礦景氣と漁景氣に惠まれ相當の賣行きを示して居り各醸造家は三月下旬開催される郡酒造組合主催の品評會出品優良酒造と共に大いに馬力をかけてゐる

入營を前に控へとんだ心得違ひ

訓導と偽つた遊興事件

將來を諭して釋放

既報—勿來町小學校訓導と偽り平驛前とらや旅館その他で三十余圓の無錢遊興を働いた犯人はその後平署で捜査の結果錦村中田五十石貢（二二）と判明二十日植田署に逮捕されたが同人はこの二十四日入營する青年であるところから將來を諭し釋放した

泉村の賭博

泉村古物商高野貞己（三八）同菅原順（三六）ほか一名は十七日夜高野方で花札賭博を開張したこと發覺、今二十一山田駐在巡査に逮捕された

學藝會と通俗講演

小名濱校で

小學校では舊正月を利用して兒童の學藝會と父兄の參集を請ふて通俗講演會を催す事となつた、即ち二十三日午前九時（舊五日）より小學校講堂に於て各學年の撰りに撰つた兒童の演技はその豫習に於て既に賞讃の價値を有し殊には時局下に因む盛澤山のプロが父兄姊妹間の呼び物となつて居る更に通俗講演會は斯道の大家作山美八先生の出演を願つてあるそうで何時もながらの人氣を博して居る

元俳優の詐欺漢捕る

湯本町字三函生れ窃盜詐欺前科五犯赤坂幸一（三四）は昨年九月川部村字小川大日本炭礦出戸飯場で働くと欺き十八圓餘の前借詐欺を働き逃走中のところこの程平署に檢擧されたが同人は一時は女形として華やかな俳優生活をしたこともある

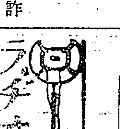
自轉車ドロ

植田町仁井田洋服業芳賀今朝雄（二二）は昨年二月錦村役場から自轉車を盜んだほか十數臺の自轉車專問のドロを働き遊興費に充てゐたこと發覺二十一日植田に檢擧された

玉の海一行

明日小名濱興業

小名濱町土工請負業三崎組長太田武彦氏は小名濱相撲協會を組織しその披露を兼ねて玉の海一行を聘し二十、二十一日の兩日同町自性院境内に於て擧行する筈であつたが雨天順延となつて明二十二日に擧行する筈



今晩の部

▽後六、〇〇　子供の時間「世界の名作から（一）ピノチオ（一）」東京放送童話研究會
▽後六、二五　講演「燃料國策と酒精の資源」（農學博士朝井勇宜）
▽後七、四〇　支那音樂「崑山」「伴姑娘舍」
▽後八、〇〇　音樂劇「早春の歌」夏川靜江、村田正雄外、獨唱長門美保外、東京放送管絃樂團
▽後八、四〇　青年の時間「重大時局に余は斯くの如き青年を熱望する」大日本聯合青年團理事陸軍少將中村明人
▽後九、一〇　浪花節「吉田忠左衞門と寺坂」吉田小奈良

明日の部

▽前一一、〇〇　小學生の時間「尋二」物語「軍用鳩はやぶさの忠義」吉川利隆、作本田義一
▽後〇、〇五　管絃樂　大阪ラヂオオーケストラ指揮福喜多鎭雄
▽後二、〇〇　小學生の時間「尋六」學校劇「仰げば尊し」池本壽子
▽後六、〇〇　子供の時間「世界の名作から（二）ピノチオ（二）」脚色並演出東京放送童話研究會
▽後七、四〇　講演「事變下における學研究の傾向」工學博士厚木勝基
▽後八、〇〇　獨唱奥田良三、ピアノ伴奏林良夫
▽後八、三〇　漫談「聲の影武者」井口靜波、伴奏東京放送管絃樂團
▽後八、四五　俗曲お鯉、三味線加代
▽後九、〇〇　ラヂオコメディ「體操大臣」古川綠波外

當市ノ確實ナル實業家ニテ教養アル女中さんヲ求ム

一、勤先　東京宅（家族小人數）
一、年齡　十八歳以上三十歳以下
一、俸給　面談ノ上
一、公休　一ヶ月二日間

御希望ノ方ハ當社へ電話下サイ、雇主ヲ御紹介致マス。

電話六三〇番
常磐毎日新聞社

御挨拶

春寒料峭の候彌々御清勝の段御祝申し上げます。陳者小生事時局柄某方面に出動〇年有半、其間御得意各意の御援助を被り誠に感激に堪へません、日下親戚廻りより引續き斯道研究の旅行中に有之近く歸宅の上御用命を相仰ぎ申しますから倍舊の御愛顧を懇願申し上げます。　敬具

二月十六日

平市田町
ドライクリーニング
白榮舍ランドリー
伊藤眞一

愛憎三度笠

吉川延　作
瀧秋方　畫

手紙　五

…（一九〇）…

源十郎は、この場の光景を見ながら、おしんの態度が不思議でならない。しかし、不思議を解くべく、時間を許されない。で、早速、二人の中央に押し入つた。

「冗談ぢやない、おしん、お前どうかしてゐるぢやないか」

源十郎は、この場合おしんを押さへて、沖田の方をおこらせぬ手段を講じるより他に道がないのであつた。

「エヽ、どうかしてゐるのよ、どうかしてゐるのさ」

「そんな、捨鉢はいはない方がよい」

「捨鉢は、妾の昔の癖だから、吐き出さなければ駄目なんですよ」

「わかつてゐるが、何故、沖田君をおこらせるんだ、少しは女らしく溫順にしろ」

「フン、偉さうなことはいはない方がよいでせう、妾も馬鹿ぢやないのだから、チヤンとはらにたゝみこんでありますよ」

「何だと、お前、あくまで不貞くされるつもりだな」

「あゝ、不貞くされるともさ、どうせ溫順にしたつて妾にや、旗本へ嫁入が出來るといふではなしさ」

「いよ〳〵以て……そのまゝに許さぬぞ」

沖田總司は拳をかためた。

「妾を毆るの」

と、泣くかと思ひの外、おしんは彼の鐵拳を恐れないのである。

「毆る！」

昂然として彼がさけんだ。

「毆るなら毆るさ、このおしんは逃げもかくれもしませんよ、女が新撰組ともあらうものが、女をなぐると云ふのだから、隨分世の中が變つたわね」

「何、いはして置けばつけあがり、武士を何と心得るか」

彼は、年が若いだけにカッとして、相手が女であらうが、子供であらうが、許すまじい態度で一足進んだ。

「妾は、あなたが新撰組で今を時めく、沖田さんとしか思つてゐないの」

おしんの毒舌は益々さえて刃なら舌三寸で相手を斬らうとするのである。

「云はせて置けば……」

あはや、彼の鐵拳がサッと空を斬らんとする間一髮の際どいところ

「待て〳〵！」

と、いふ重い聲、いふまでもなく近藤ぢやない。

「何！」

彼はその聲に、不思議にけん制されて毆らうとした衝動が突如として、氷のやうにさめてしまつたのであつた。

「つまらない眞似をするなよ」

と、のつそり顏を見せたのはこの雪夜に、何の要件があつてこの田舍へ、と訝しがるのも當然の、近藤勇であつたのである。

「いや、とんだ所を見つかりましたね」

沖田はさすがに頭をかいた。

「おや〳〵おしんどのか、大分酒が廻つたな」

と、近藤はおしんの方を振りかへる。

「酒が、廻つてゐるんですつて？」

流行語

「メムバー」會員、顔ぶれ。部員、野球などで「早稲田のメムバーは……」などよく用ひられますが「から云ふメムバーで出かけることになりました」など云ひます。

子供の本與へ方

頭をよく考へて

一册買ふにも御注意

子供が繪本や雜誌から受ける影響は今さら云ふまでもないことです、それだけに何時どんなものを與へたらいゝか、といふことはお母さんがたにとつて重大な問題です……

……小さいですから簡單な繪で全く文字はいつてゐないものもあります・どちらでもさしつかへない、一つは子供の興味のいかんです、一冊に統一して與へずに、色々のものが適當に組合はされたものがよい、例へば乗物があり動物があり花鳥があり、玩具があると云つたように、かなり多方面のものゝあるのを選びます。一冊でさう云ふものが手にはいらないときは適當に組合せて與へるやうにしてほしいものです。また子供の遊びや家庭生活、生物、器物等をしめしたもの風俗や生態を子供にわかるように書いたものなど結構です、これらのものは別に與へる時期と云つたやうなものはきめなくともよく、子供が興味を持つたら與へてよい 然し一般的には三歳以前にさう云ふ興味は持つてくるものです しかし、その頃は、既に繪本を見るだけで讀みません、それが三歳近くなると眺めるのではなく讀んできます、從つて繪も個々のものを連絡なしにならべただけでなく、全體として何等かの意味を示した繪本を選ぶべきです、年齢的には四歳から六歳と云つたところです、内容は昔話と童話に取する物がよい。桃太郎とカチカチ山もその一例です、また日本の神話に取する物語りで繪本中心にしたものなどがよい、いなばの兎などはその一例です、また御伽噺は大江山、浦島太郎等の傳説的なものを取扱つたものを選擇する、さらに鳥の家とか動物の家、或は蟻の生活などを生活的に取扱つた[illegible]小學校の讀本が適當です、小學校へはいるやうになると、いまゝでの繪本中心でなく、讀物を中心とした本を與へます、即ち今までとは逆に記事を中心に繪はさし繪の程度になるわけです、その記事も物語としてはイソップのようなものを、またお伽噺は架空的なものをやめて、初歩の史話を取扱つたものがよい、義經、楠氏、乃木將軍などその一例です、つぎに科學材料では動物物語、また風俗、習慣、動物と人生と云つた理科的の指導、山岳や文學の話を扱つたものを選擇します、また外國の風俗、習慣、物價、世界の不思議などの文化材料を扱つたものを與へる必要があります

・長・壽・讀・本・

五十歳すぎたら大食は禁物

却つて命をちぢめる

人間は五十になると、大概のものは、いはゆる老衰現象を來します この時代からは、體内の新陳代謝が非常にぶく遲くなり、從つて新陳代謝の旺盛な若いもの〻やうに消化力がつゞかず、元氣が衰へます ここで注意しなければならないのは、食物で、まづ活動力の源である榮養のことから申しますと普通生活をしてゐる人達は、男子で假りに五十キロの體重のあるものとしたら、一日の必要量は、二千から二千二百カロリー婦人でしたらその八割か八割三分でよいことになつてゐますが これ以上のカロリーをとつたとすると消化器の努力をますことになる、一方必要以外のものは脂肪となつて、身體につくため困りますが、年をとるにしたがつて困るのは、一寸見には[illegible]のやうですが、健康上から云ふと、これはよくないので、統計にあるやうに脂肪過多は短命であり、從つて食物の攝取量をとることには注意しなければなりません 食物の種類では動物食が少しのやうに、植物食中心に申しあげると水分、蛋白、含水炭素、脂肪、無機鹽類、ビタミンですが、それは丁度、家の材料のやうなもので[illegible]つてゐる[illegible]と同じでこのため、どちらの成分も、[illegible]左右されてゐるので、それを[illegible]することになるのです、それだけ[illegible]も若い時代でしたら、それに[illegible]すると云ふことがあるので、それに必要なカロリーをとつてゆかなければなりませんが、老人は[illegible]がないのだし、この食物[illegible]け少くてよいのだし、また[illegible]にしても若い者のように[illegible]にはやれないので、エネルギーの[illegible]が少くなるから、たくさんカロリーも少くていゝといふことになります

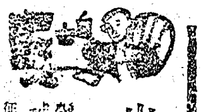
（[illegible]）

慰問品の新品

肩あて

……寒い戰地をかついで、[illegible]くなる山はいつた背嚢を背負つて第一線に進撃する兵士の肩袈は銃袋の縫もが破損してゐる所であるが、肩をいためないようにとて此の肩あて「肩あて布とん」と云ふものが考案されたさうである

……これを肩にあて使用すれば銃の肩ずれを防ぎ、背中の方に使へば背嚢ずれをもふせぐし、さらに戰線に於ての防寒にも役立たせると云ふことです、この種のものは贅澤を求めるまでもなく家庭で工夫し手製することができると思ひます。第一線への慰問にはこんで持つて參りませう。[illegible]は是非考へませう



出征者への禮

北原みさを

出征のために、祕密のために征つて下さる兵隊達[illegible]人が[illegible]のホームおくりして、誰もが何の一つもせずに過ごすのはなぜであらうか 出征兵士が一列になるのに私は[illegible]してゐる人を來たに[illegible]かない[illegible]に

殘つてゐる男子は召されゆくつはものに、なぜ「宜しくお願ひします」と云はないのであらうか。朗らかに[illegible]にゐられる女子が「お國を御大切に」となぜ云へないのであらうか。日本國民である、心の中は必ずや感謝の念に燃えてゐるであらう。たゞこれが形式的に表現出來ないのがわが國民性の然らしむる所である。だが、見知らぬ人が、應召兵である故に、[illegible]をつくしてくれると思つて讃へるなれば、それは熱情はげしい感激といかに男子が勇氣づけられることであらう

それを思ふ故に私は人の好意的態度、或は出すぎる者よとの誹りをさへおそれないで、或は[illegible]えながら、敢て[illegible]のである。出征軍人は、一戸の家と共に、次の戰鬪には心からの感謝をもつて[illegible]ある。

菊と櫻の花にみる

日本精神の姿

挿花から見た誇り

安達式生花家元 **安達潮花氏談**

皇室の御紋章が菊花限りなき菊の花であつて、高貴さの感みさあります。さうした色彩、形の變化が優秀であつて、すべての花の中に國花として日本の菊の特徴を現ることは世界的の誇りでもありますが、日本人はこの菊の花をもう一層認識しなほして欲しい、さうして菊の、いつも高貴として、[illegible]える努力と人と勵む、[illegible]と云ふような熱意を見て頂きたいもう一つは櫻です。櫻花見に櫻を愛するよりも、櫻の花の美しさをしみじみと見つめていたゞきたい 櫻の花が美しい花と[illegible]な姿とは又日本人の[illegible]をあらはしたものであります。日本はもつと[illegible]かです、さうしてちつと耐へてゐる力と云ふよりも、颯爽として散りしてゆく氣概があふれてゐるよう所の特つ姿さです。日本人は日本に美しい菊があるにもかゝはらず、菊からその美しさのみとめられて、[illegible]されて、[illegible]

日本人の精神が[illegible]るのではないかと思はれる。[illegible]高尚、[illegible]の風格がある、菊花も形と色彩の[illegible]でなければ、菊の持つ心がはなれてしまつてゐるのです、[illegible]のすべての[illegible]ことを[illegible]と[illegible]のも、[illegible]としてゐることや、[illegible]しかも[illegible]んでゐることは、[illegible]くなくなつたのは[illegible]のです

[illegible]日本人の[illegible]は、やがて[illegible]の[illegible]と[illegible]くでせう、日本人は[illegible]い、しかし[illegible]のやんだ[illegible]のいこひの[illegible]、テーブルの上に[illegible]の花が飾つてあり、[illegible]はよく[illegible]を空中より[illegible]げ、[illegible]の一[illegible]は、菊の花をサイダーの[illegible]にさして、長い[illegible]つゞけ、[illegible]にくゝりつけて、大陸の大空に光りかゞやかしたとのこと、日本人の強さはここにあるとしみじみ感じます、[illegible]に[illegible]たるゆとりの[illegible]を包[illegible]してゐる戰士こそ、日本精神の[illegible]と[illegible]してゐるものです、それは丁度菊の[illegible]と[illegible]のように。

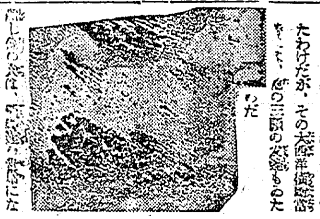
●海・外・小・話●

犬の獨り旅

長途八百哩

ドイツの犬が先頃に獨り旅で[illegible]のサンディエゴ迄やつて來たこの犬は百ポンドのドイツ種シェファードで、持主から千ドルの保險をかけられてゐる

このシェファードは、ドイツのニュールンベルタを出發、サンディエゴ迄、長途八百哩を人間のお伴なしに獨り旅をやつたわけだが、その大西洋横斷[illegible]もつたわけだ



[illegible]の[illegible]は、[illegible]になつて、目出たく[illegible]に上陸したが、[illegible]にミネッタ[illegible]あたりでゆくへ不明になつて[illegible]此シェファードだけが目的地サンディエゴに到着した[illegible]の[illegible]についても[illegible]こそ[illegible]であり[illegible]でもあつたわけだ

祖國

堀健吉作　畠野奎三畫

・・七二・・

河畔の小屋 八

暗い河岸をさやしやな姿がたゞ一人ふらふらと人形のやうに浮き足で歩いてゆくばかりだつた。

松栗校はコツンコツンと靴音をたてながら忽ちその女に追ひついた。

「あんた來たの――どんなおそくどこへ行くのよ」

女はふりかへつて、意味深い[illegible]を見た。

「探ささ――おれの[illegible]へ行くのさ――」

といひながら、既の尺八をぬいて、ひようと息を入れた。

女がふと、足をとめた。

片腕で松栗校によりかゝらせたまゝの姿勢で、[illegible]は[illegible]の一曲八丈ケ島をゆるゆるとふきました。

その旋律が川水に反響して、鳥がなくやうに聞かれた。

女はうつとりと、聞き惚れてゐた。

「どうだい、うまいもんだらう」

「ほんと！ いゝわねえ」

と、云つたが、[illegible]思えて

「ぢや、こゝで失禮するわ、又こんどゆつくりきかせてね。おつかさん待たしてあるから……」

といふなり、女は急にいそぎ足になつた。

「さうか」

といつて、[illegible]いそくのであつた。

このとき、鐘ケ淵紡績の女工たちの[illegible]が十時の[illegible]をうげた。今まで明るかつた窓々の灯がつぎつぎと消えて行つて、一つ黒な大紡績は怪物のうづくまつたやうな姿となつた。

上弦の月が血のやうな色で、ふるえながら紡績のうしろにしづみかけてゐた。

さつと肌寒い風が一と吹き川面から吹いて來た。

女は、ぶるぶると身をふるはせた。

なんだか、うしろからついて來る、[illegible]の氣味のわるい男が、いまにも、あの[illegible]をあげて[illegible]女のえりがみをひつかけ、何か無理難題を持ちかけるのではないかといふ恐怖が、ぞつと總身があはたつのを覺えた。

思はず女の足は一さうはやくなつた。

一町程先に、ぽつかりと赤い小さな灯がついてゐる。

あれは水神さまの祠だ、あそこまで行けばもう一と足ですぐ明るい町に出る。

女はすたすたとはしり出した。

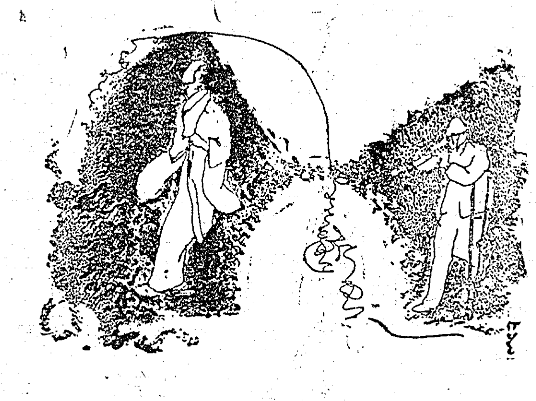
「どうしたんだ、おい、そんなにはしり出さなくてもいゝぢやねえか……それとも俺がこわいのか……」

さういはれると、女は答へることも出來ない程におびえ上つて、

「あれ！」

と泣き聲をあげながら、いまは懸命にかけだした。

「まて！ あま！ にくいやつだ……」



「待ちやがれ！」

男は息をきらしながら、コツンコツン[illegible]の靴音を高くならして、これも懸命でかけだした。

女はもう命がけだつた。

見えも外分もわすれて[illegible]のすそを高くはしより、赤いけだしをみだしてかけだした。

が、もうおそかつた。

男の腕はすでに女の襟がみをつかんでゐた。

「なにをするの、あんた。何にを……」

さういつて、身をもだへると、女は男の把握から手りぬけたけれど、全身恐怖でこはばつた手足は女の命令にそむいて[illegible]のやうにその自由をうしなひ、前へ前へとおよぐやうに手をつき出しはしても、クギづけになつてしまつた足はさつぱりうごかなくなつてしまつた。

「ふ……何にをこわがるんだ、馬鹿め！……貸してくれ！ な、貸してくれ、いゝ子だ……お前にやいらねえ金だ。おれの[illegible]にとつちや最後のわらだ！……な、きつと返す、倍にしてかへす……十倍にして返す……いや百倍……千倍にしてかへす……いゝだらうな、わかつてくれるだらう。なにとぞいさぎよく出してくれ……な

芳醇！ 味美！

たひら正宗

山崎合名會社 電話一一〇番

國旗と提灯 スガノヤ

シモヤケ家傳藥

是までシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二、三回の御使用でクヅレたシモヤケも忘れたやうに完全に治ります。

現今の塗藥は異つた豫法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません又クヅレタシモヤケに塗藥では塗布と同時に痛みを感じたりカユミを增したり致しますが此藥は無刺戟の中に心地良い豫法により皮下の血行を良くし幼きお子樣方にも喜ばれて如何にクヅレたシモヤケでも完全に治る事保證致します。

（定價三十五錢）

東京市丸井邦寶堂

茨城 福島 兩縣特約販賣 伊藤石炭店 平市一丁目 電話三四九番

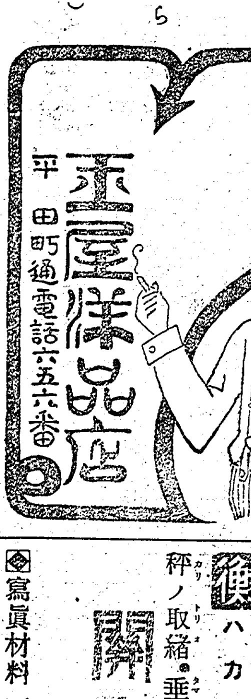
專門 花柳病科 婦人科 產科

▼入院隨意

井坂醫院 平市田町 電話五五九番

冬物は是非！ 當店から （在庫豊富）

玉屋洋品店 平 田町通電話六五六番



鈴木醫院 平市田町 電話五八番

三井タクシー 平二 電話六八五番

メガネは！ 平市二丁目 玉屋

開業御挨拶

久しく休業致しましたが今回改築の上東京から娘かす子を呼び舊正月二日（二月二十日）から從前通り開業致します、私同樣御引立をお願ひ申上げます。

平市田町

御料理 寶萊亭 阿部チヱ 電話三三二番

おそば!!! 電話4番 やぶそばへ!!

天ぷらそば おかめそば 玉子とじ 鴨南ばん 出前迅速

其の他各種御座います。何卒御試食の程御願申ます。

開店口上

味覺を本位として新しい喜びに充ちて生れた『山茶』は味道の客！…… 殊に家族連れ！日本料理と壽司とを主としたモダン割烹で御座居ます。當店は家族的な團欒を强調、設備調度は申す迄もなく店内の雰圍氣を常に明朗にして氣品を高め潑剌として秩序あらしめ是に美酒佳肴を配してお客様を極めて氣輕に三味境に入らしむるをモツトーとし萬事に心を醉いて居ります。美味無限の山茶、眞にお客様本位の山茶、御家族御同伴の山茶、是れこそ高らかに產聲を擧げた山茶の眞價で御座居ます。何卒御愛顧御利用下さいます樣切望いたします。

山茶 平市仲田町

銃後の皆樣喜んで御使用になる 糸イラズ

綿布、綿糸、發臘の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジヤケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい

定價20錢 30錢

平市古鍛冶町一〇

阿康藥局 電話四四番 振替東京三〇〇六五番

職工募集

家具職工 數名 指物職工 數名（給料面談）

見習工 數名（初給月拾九圓より）

家具指物 飛行機木馬 神棚佛壇 建築材加工

製作卸 橋本屋木工場 平市新川町 電一六三番

內科外科一般 金成醫院 金成忠義 平市鎌田町 電話三五八番

吸入用酸素 99%純度

モノサシ マス ハカリ

體温計 寒暖計

度量衡 計量器

秤ノ取緖・垂糸・修繕致シマス

寫眞材料一式販賣致シマス

關内藥局 電話四〇番